

第4回奥州市立小中学校再編検討委員会 会議録

日 時 令和2年7月31日（金） 15時から16時23分

場 所 奥州市役所江刺総合支所 212・213 会議室

出席者 委員 13名（欠席委員6名） 教育委員会事務局 8名

<委嘱状交付>

- 1 開 会
- 2 委員の委嘱
- 3 挨拶

（教育長）

ありがとうございます。今全国的に、コロナウイルス感染ということで拡大しております。残念ながらっていったらいいんでしょうか、岩手でも発症者が出た、感染者が出たということでもありますのでますます今後注意していかなければならないのかなというふうに思っているところであります。

今学期はと言ったらいいでしょうか、学校関係者の皆様については、新型コロナウイルスのために新学期早々、いろんな部分での行事等が変更になったり、そしてまた2学期に移ったりということでご苦労かけてしまったということについては大変申し訳なかったと思います。今子供たちは夏休みに入っております。今回は学校のプールを使えないということで、残念ですが、元気よく姿を見せ、見るところを、私が通勤してるときに見たりします。大変現況になっているのかなと。このまま何事もなく過ごしていただければなというふうに願っているところであります。

そんな中、第4回奥州市立小中学校再編検討委員会へご出席いただきましてありがとうございます。先ほどは委嘱状交付ということで、代表受領として校長先生にお願いしました。そのほか5名の方々に、新しい委員を委嘱しているということでもありますので、よろしくお願ひしたいと思います。これ第4回ということではありますが、今年度になって第1回ということでもあります。実はこの経緯は平成29年の3月に奥州市立小中学校適正規模検討委員会を設置しております。その検討していただく適正規模について検討していただきまして平成31年の3月に答申をいただきました。そして再編基本計画のいわゆる見直し案を答申いただきました。この答申を受けまして、31年っていか令和元年になりますね。令和元年の9月にこの奥州市立小中学校再編検討委員会を設置し、令和2年の今年の2月まで第3回を行っております。今回は4回目ということになります。

実はもっとこの4回目をもう少し早くということを考えておりましたが、先ほど言いましたように、コロナウイルス対策ということで、若干遅れてしまったことについて申し訳なかったなと思っております。その間この基本計画、1回目から3回目までには、学校の再編の目的とか、適正な教員配置そして指導体制の充実についてのご協議をしていただきました。その中では学校編成の目的として学校再編ということの目的としてのねらいとかは、活力のある学校、そして学校づくり、そしてたくましい児童生徒の育成を主に話し合っております。編成のねらいにつきましては大きくは小学校の複式学級の解消をするということでもあります。もう一つは、中学生にとっては、いわゆる

適正な規模のところ、かつ部活動っていうんですか、希望できるような生かせるような部活動そして合唱指導等ダイナミックな活動ができるような規模を編成したいと編成してはどうかということで、答申いただいております。もう一つは、先ほど言いましたように、適正な教員配置、指導体制の充実ということにつきましてもいわゆる小学校における担任外の先生が配置できるような規模、最低でもですね。それから中学校におきましては、全教科の専科教員が配置できる学校規模を目指しております。それは何かというと、子供たちにとって一番教育的な質を上げることが大きなねらいであります。学力向上ということも含めております。そういうことで、この編成を考えております。

また今までは、前回までの3回までの委員会の中では、その後どういうふうに進めていくのかというスケジュールについても話し合っておりますし、この当委員会での検討事項、そしてこの各地域に行った場合、次は準備検討委員会が入るわけですけどそのときの検討、話し合いの検討内容等を話し合っております。で、学校を基本再編の案につきましても根本の考え方っていうか、これについても3回までにきちっと、皆さんからご意見をいただいてそのように進めて参りました。でその中でですね第3回目にはやはり、大枠はわかったと簡単に言います大枠の考え方わかったが、具体的な素案、編成案がないと議論が深まらないということをご指摘をいただきました。ご意見をいただきました。

そこで今回の本日の委員会におきましては学校再編のねらいはもとより、目指す学校の再編の姿、素案という形になりますが、それを提案させていただきます。詳しくは後で学校教育課長から説明をさせます。学校再編のねらいにつきましても先ほど言ったとおりでございます。

実は今回ですね先月、6月11だったかな、11から今週の28日まで、30地区、地区の地区センターを会場にしまして、市政懇談会っていった大きなテーマは、財政化問題の説明でありました。で、財政化問題につきましても説明をしたわけですけど、そのあとの後半の市政懇談会の中で、何か質問ありませんかということになったときに、多くは教育問題のって再編がどうなってんだと、統合がどうすんだという話が出ました。特に、江刺地域ですか江刺地域はご存知のとおり奥州市には複式学級、さっき言いました複式学級を持つ学校11校あります。27校中11校です。その11校のうち9校が江刺地域にあります。そこで江刺の各センターではほぼ同じように再編について質問がありました。そして、再編をもっと早くすべきだとかいう意見が多かったように私は思います。今までになかったような意見というふうにとらえていいのか、時代がそういうなったんだろうというふうに思っております。実はこれをですね、全員、ちょうどその時に当然、市長、副市長も行ってますし、それを聞いております。私たちは複式、このいわゆる解消という大きな二つのさっきの、再編のねらいを持った案を示していましたところ、市長よりもっと早く進めろと、いう指示を受けました。そこでこの学校再編案の案では、令和4年の9月ということ、まず一応の目途として案を定めることにしておりましたが、話し合いによってもう少し早めなきゃいけないかなというふうに思います。時期的にはいつまでということちょっと示されないかもしれませんが、できるだけ早く策定を進めていきたいと。そしてそれを考えていきたいと。思います。

基本的には、先ほど言いましたけども、児童生徒にとって一番いいのは何かということ、前提とした考え方ではないといけないと。特にも、後で出てきますが4名の学校が、来年はできてしまいます。これで本当に学校といえるのかということも、大きく考えております。そこで緊急に進め

なければならぬということがあります。学校再編にとっては、その地域の方々、保護者の方々にとって大変な問題でありますし、またご理解をいただかないと進めない、進んでいかないということはもう私たちはきちっと、肝に銘じております。したがって先ほどのここでの案を、素案を提案します。そして、それは先ほど何度も言いますが子供たちにとってどういう姿が一番いいのかということをベースにして考えております。是非、委員の皆様方には、今日の案を今回だけじゃなくてもいいですけども、是非ご意見をいただき、忌憚のないご意見をいただきながら、もう少しこうやったほうがいいんじゃないかという提案があると思います。それを是非出していただければなと。それをとしましてスケジュールに応じて、各地域に説明に参りたいと思っているところでありますので、本日はよろしくお願ひしたいと思ひます。

(委員長)

皆さんこんにちは。昨年度末まで、委員の皆さんには貴重なご意見をいただきながら、先ほど教育長が話したような形でですね、見直し案をまとめたところであります。総論は大体わかったと。ただやっぱり具体的に踏み込んでいかないと、いろいろな問題点をやっぱり具体的に話すことはできないというそういう経過があったので、できれば早い時期にですね、この素案を出して、皆さんから検討していただいて、そして地域の方に説明をするというスケジュールをできないものかなと思ひましたが、先ほどの教育長の説明のとおり、市長部局の方でも、かなりやっぱり進まない駄目だという認識を、地域での懇談会の中で聞いたと、そういうことですので、今日提案される中身については、かなりぎよっとするぐらい、踏み込んだ提案になるのではないかなというふうに思ひます。

したがって、ここに集まった委員の皆様からは、率直な質問とそれから、建設的な意見をいただいてですね、ここで、今回の部分のやつをまとめた上で素案をまとめた上で、地区懇談会に進むというスケジュールになっていかないと、なかなか難しい問題があるのかなというふうに思ひます。今日はフリートーキングのような場面も多分あるんじゃないかなと思ひますので、積極的な発言をしていただきたいと思ひます。

私もこの統合とか、再編の問題ってのはどの県内、全国ですね、やっぱり子供たちのためにどうなのかっていうことと、10年20年後どうなるのかっていう視点がないと、どうしても地域が縮小するとかそういう観点だけで話をすると、話は進まないのではないかなというふうに思ひます。その時に参考になるのは、すでに統合を果たしている、前沢地区7つの小学校。それから、胆沢の3中学校。この子供たちのアンケートを見るにおいて、やっぱり統合して自分たちがいろいろなことがダイナミックにできてよかった、人の出会いが大きくなることによっていろいろな友達と交流ができる、そして、いろんな活動が創造的にやれるっていうのが、この子供たちでしたし、預けている保護者の声だったような気がします。そういう点も踏まえながらですね、今日提案される素案について、率直な意見をお願ひしたいなと思ひます。

私は一関市の方でも統合が進んでるんですが、その時にいろいろやったその委員長さんの話を直接意見交換したことがあるんですが、やっぱり学校統合に関わっては、三つの視点をきちっと大事に持っていかなきゃならないんじゃないか。それはやっぱり、ここに学校関係者もおりますけれども、学校規模、やっぱり望ましい子供たちの活動を促すためには、やっぱり教える側の学校ではど

うなのかとね。例えば複式かかえたとき、あるいは本当に小規模の場合、そういった点から、学校経営として本当にこれでいいのかという、やっぱり、是非、校長先生方から意見を出していただきたいですし、そこに通わせる保護者の側からの通学の問題とか、あるいは統合するにあたってのいろんな貴重な意見があるんじゃないかな、あるいは地域の問題もあると思います。そしてもう一つは、市教育委員会、そうですし、財政的なバックアップしてくれるまちづくりという観点からいうと、市部局ですね。市長部局の方、いわゆる市としての地域づくりなり、まちっていうのはどういうふうに描いていくかっていう観点から、やっぱり論議が必要ではないかなと、そういうふうに思います。そういう意味で、それを総合的に勘案しながら、この地区はもっと急ぐべきだとか、ここはもう少し様子を見ながらとか、要望を聞きながらとか、あるいは統合にあたっての条件をどうするのかとか、そういうふうな踏み込み方が必要ではないか。したがって段階的に進めるっていうことも必要ではないかなというふうに思ってますので、そんなことを踏まえながら、皆さんの、今日の会議でのご意見をいただきたいなと思います。よろしくをお願いします。

4 委員及び事務局紹介

5 報告

(学校教育課長)

よろしくお願ひいたします。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

まず初めに、別添資料の1をご覧くださいと思います。今年度から新たに委員となりました方5名いらっしゃいますので、平成29年度、30年度学校適正規模検討委員会と、昨年度の学校再編検討委員会での議論の経過について、若干早足になりますけれども、ここでご紹介いたします。別添資料1の1ページ目でございます。大きな一番、奥州市の小中学校の現状と今後の見通しについてということで、1番の全体の状況は、小学校、中学校ともに児童数、学級数このように減少傾向となっております。2番の学校ごとの状況でございますが、教育長挨拶にもありましたとおり、複式学級が11校という状況、全ての専科教員の配置がない中学校が3校という状況になってございます。

進んでいただきまして2ページからは、平成29年度に実施しました保護者アンケートの結果になってございます。ここからは、太い下線の部分を中心にお話をいたします。中ほどのところ、一定規模の中での学力向上、学びあい、友達との関わりを望む声が多い。小学校の部分でございます。2番の中学校の学級の適正規模について、中ほどでございます。小学校に比べると、教員の指導のしやすさを望む意見の割合は低く、学び合い、競い合い、友達との関わり、部活動の充実を望む意見が多いということ。3番の適正規模による学校編成に対する考えでございますが、下線の部分です。全体は、適正規模に基づく学校再編を求める意見が約70%。それに対し、再編に否定的な意見は約15%という状態でございました。

3ページをご覧ください。地域懇談会における主な意見ということで、平成29年11月実施、7地域での実施でございました。左の箱、適正規模について、白い丸の五つ目でございます。中学校では部活動に選択肢がない。その下、専門の免許を持つ先生がいないという状況が生じないようにしてほしいという意見がございました。下の方の今後の進め方についてご覧ください。小規模過ぎるので、今すぐにでも再編を進めてほしい。多くの小学校に複式学級があり、危機的状況であり、

スピーディーに進めて欲しい。子どもの活動の充実のために部活動の統合を先行するなど、スピード感を持って進めて欲しい。保護者アンケート結果を見ると、多くの家庭が危機感を持っている。平成32年令和2年では遅い。学区外就学を簡単に認めると学区の意味がなくなる。学区の考え方を検討する必要がある。再編に係る行政案を出して検討する形をとって欲しい。という意見がございました。

4ページをご覧ください。こちらは統合経験した児童生徒及びその保護者アンケートの結果で、平成30年6月実施でございます。調査の対象は前沢小学校6年生、前沢中学校の1年生から3年生の生徒、胆沢中学校の3年生とその保護者となっております。(1)番の児童生徒アンケートの結果は、一番下の方でございます。下線の部分中心ですが、統合を経験した児童生徒は統合による生活や学習環境の変化を概ね好意的にとらえていると考えられる。しかし、多人数の中で、好ましい友人関係を築くこと、授業や諸活動で個々の児童生徒が満足感・充実感を持つことなどについては課題が見られると考えられる、でございます。

続きまして5ページは、保護者アンケートの結果でございます。こちらが一番下の下線の部分でございます。統合経験した児童生徒の保護者も統合による生活や学習環境の変化を概ね好意的に捉えていると考えられる。しかし、児童生徒同様、友人関係や学習面について心配するとともに旧小学校を中心とした地域との繋がりが希薄になることを危惧している。学校再編を検討する際、配慮が必要であると考えられる、となっております。

進みまして、6ページは教職員アンケートの結果で、こちら平成30年7月から8月にかけて実施しております。中程の(2)番適正な1学年の学級数の部分ですが、小学校についてです。学級替えや学級間の競い合いができること、教職員が協力して学年の指導に当たれること、学年全体を掌握しやすい人数であることを望んでいるものと思われる。中学校については、小学校に比べ、より学級間の競い合いがある中学校においては、3～4学級が適正と考える教職員が多いと思われる、という結果になってございます。

7ページ進みまして、こちらは適正な1学級の人数、適正な1学年の学級数の選択理由ということで、中ほどにあります下線の部分です。学習では、基礎基本の定着と児童生徒の学び合いや意見交流を理由に学級の人数や学級数を選択している教職員が多い。小学校低学年が11～20人、小学校中学年から中学校21～30人、この2点を共に実現できる人数と考えていると捉えることができる、となっております。

最後の8ページでございます。こちらは、小中学校再編基本計画の概要と今後の見通しということで、1番はアンケート・地域懇談会のまとめになってございます。再編基本計画について、検討課題は挙げられずに、概ね理解が得られた。保護者の意見としましては、小学校は1学級20人前後の人数、中学校は21～30人の人数が望ましい。学び合い・競い合いや友達との関わりの充実は小・中学校に共通して求めている。加えて、小学校は個に応じた指導、中学校は部活動の充実を図って欲しい。地域からの意見としましては、複式学級を解消して欲しい。部活動等、様々な活動が可能となる人数の学校が望ましい。中学校は、各教科の免許を持つ教員を配置して欲しい。教職員の意見としましては、小学校は1学年2～3学級、中学校は3～4学級が望ましい。学年が上がるに連れて、個の指導に加え集団の指導を重視したい、となっております。2番は基本計画の概要ということで、こちらは、まずは、6学級～24学級を適正規模として確認がされているところでござい

ます。

続きまして、令和元年度、昨年度ですが、第3回の検討委員会の議事録をご覧いただきたいと思
います。1枚ものになってございます。表裏の資料でございます。総ページ数が20ページの中から
抜粋したものでございますので、こちらの下線部のところで確認ということでお願いいたします。
表のところ、ここで素案を作らないで、適正の構図を出していても意見が出ないと思う。ある程度
の素案を作った上で、地域に行って納得するまで説明するか、改正案を出してもらうか、というよ
うな方法を取るべきではないかという意見が出ておりました。裏面進んでいただきまして、下線部
の部分です。江刺などは、まだ近いようにこう思ってしまうけれども、実際には大変遠い、そうい
う勘違いもあるので、大きな地図を作って、その上でわかるような工夫をしていただきたいという
部分。あとは、意見聞く時に地域ごとにあれば良いと思う。学区ごとの意見をどういう形で吸い上
げることが課題であると、いうことで意見をいただいているところです。

これらのご意見を受けて、今回素案を事務局として提示するものでございます。報告は以上とな
ります。

(質疑なし)

6 協議

(1) 奥州市立小中学校の学校再編案(素案)について (10:24)

(委員長)

それでは、協議に入りたいと思います。それでは(1)の奥州市立小中学校の学校再編案(素案)
について事務局の方からご説明をお願いします。

(学校教育課長)

はい。それでは、本資料のレジメの1ページをご覧ください。1番学校再編のねらいでございま
す。奥州市小中学校再編基本計画に基づいて、小学校における複式学級の解消及び中学校全教科の
専科教員配置による学力向上、さらに、生徒の規模に応じられる部活動の加入を可能とするため、
前・後期に分けた段階的な統廃合を行い、課題解決を図る。と提案いたします。

2番、学校再編のスケジュールでございます。学校再編案の策定は、令和4年9月までを目途に、
学校再編案の策定を目指しております。こちらは先ほど教育長挨拶の中にございましたとおり、
できる限り早い策定完了を目指したいということでの提案でございます。学校再編の完了について、
再編時期を前・後期に分け、概ね10年後の令和11年を目途に、学校再編の完了を目指す。前期は、
令和2年から令和5年度末まで、こちらは段階的な統廃合による、スピード感を持った課題解決に
向けて、先行的な統廃合の検討対象地域とする。後期は令和6年度以降となりますが、今後の児童
生徒数の変化を注視しながら、状況によっては統廃合の検討を対象する地域とすると、いうふう
に提案をいたします。

3番の本検討委員会での検討事項でございますが、こちらは太い部分です。学校再編案の策定。
(2)段階的な統廃合案の策定、(3)既存の学校施設を利用した先行的な統廃合の検討というこ
とで、この部分については、少し読ませていただきます。同一中学校区で、以下の基準のすべてに当

てはまる過小規模校がある場合は、市全体の学校再編案の策定と並行して、先行的な統廃合の検討対象地域とする。箱囲みの中でございます。ア 在籍児童のない学年があり、今後もその状況が継続する見込みであること。イ 飛び複式学級がある、または可能性があること。ウ 近隣に20分程度で通学可能な既存の学校施設があること。エ 保護者、地域の理解が得られること。オ 統廃合により、上記ア・イの状況が解消でき、教育的な効果が期待できること。現在、この基準に沿いまして先行的な統廃合の検討、対象校として、木細工小学校が挙げられておりますので後程お話しいたします。

進んでいただきまして2ページでございます。地域ごとの検討委員会・準備委員会での検討事項につきましては、ゴシック字の部分だけでございますが、(1)再編する学校の特色の検討。(2)通学手段の検討。(3)放課後の児童の見守りに係る検討。そして(4)その他ということでございます。

3ページからは、学校再編案策定に関わっての根本についてということで、こちらはご覧いただきたいというところでございます。

資料を進めまして5ページからが、今回提案いたします各地域の学校再編素案になってございます。6番の見出のところから学校再編案とございますが、訂正をお願いいたします。こちら学校再編素案、あくまでも素案でございます。(1)(2)の見出しの中の学校再編案となっております大変申し訳ございません。素案と訂正をお願いいたします。加えまして、こちらの表、大変見にくくなっておりますので、別添2の資料を使いまして、ご説明をさせていただきます。

別添資料2の1ページ目でございます。学校再編のねらいにつきましては先ほどお話ししたとおりです。2番、目指す再編の姿ということで、まずは小学校からお話しいたします。前期は、今年度から令和5年度末ということで、水沢地域です。黒石小学校を姉体小学校へ統合する。江刺、木細工小学校を玉里小へ速やかに統合され、できる限り令和2年度末を目指すという提案でございます。人首小、梁川小、広瀬小を玉里小へ統合する。田原小、大田代小、藤里小、伊手小を岩谷堂小へ統合する。胆沢地域でございます。胆沢愛宕小を若柳小へ統合する。後期は令和6年度以降ということでございますが、こちらはこのようなするというそういう意味合いではなく、状況によって統廃合の検討をする、そういう対象地域とするという意味でございます。水沢地区は、羽田小学校。江刺は、一度統合した玉里小学校と稲瀬小学校が対象という提案でございます。胆沢地域は、若柳小学校と南都田小学校。衣川は、衣里小学校と衣川小学校という提案でございます。

(2)番は中学校となります。前期は令和3年から令和5年度末です。江刺のみ対象となります、江刺南中を江刺一中へ統合する。提案としましては令和3年度末が江刺南中でございます。江刺東中の江刺一中へ統合。こちらは令和5年度末ということで提案をするところでございます。後期、令和6年度以降の部分でございますが、こちらは学区の見直しを含めた調整の検討を行うということで提案するところでございます。右下に、最終的な学校再編の姿ということで学校数をお示ししております。

資料を進んでいただきまして、2ページが学校再編素案の市全体のロードマップとなっております。今ご説明した内容と同じ内容となりますが、こちらは表になっておりまして、縦の列が年度を表しております。本年度、令和、R2とありますところが今年度でございます。ちなみに木細工小学校が少し網掛けになってございますのでこちらご覧いただきたいんですが、木細工小学校がBグ

ループということでお示ししてあります。こちらを今年度に統合した場合、矢印の先に、表がございまして、こちら令和3年度に学級数それから児童数を示してございます。もしも、令和3年度このままいきますと玉里小学校は、1年生から6年生までこの人数。木細工小学校をご覧くださいますと、1年生がゼロ。5年生、6年生もゼロということで、全校人数が4名。入学式、卒業式がないという状況でございますが、令和3年度から統合でスタートしました場合は、合計人数のところをご覧くださいまして、6、9、5、6、9、9となりまして、それぞれ1学級、複式が解消できるというふうに見ただければということでございます。

それから、3ページは、地図になってございます。先ほどご紹介した第3回の検討委員会の中の議事録にもございましたが、地図も示した方がわかりやすいということでのご提案です。こちらと合わせまして、本資料に戻っていただきまして6ページの部分には、統合先の学校までの距離等をバスを使った場合の所要時間を示してございます。この資料の6ページ、下の部分でございます。(6)ということで、前期統廃合のイメージとなっている部分でございます。それぞれ統合先の学校への距離、時間数ということは、こちらを参考にさせていただけたらと思います。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

(委員長)

はい。それでは、

(委員)

具体的なことなので、確認させていただいていいですか。その資料の衣川地域の児童数が書かれてあるんですが、以前いただいた資料とは明らかに数字が違うような気がするんですがこれは本当なんですか。

(委員長)

6ページ(5)衣里。

(委員)

はい。衣川と衣里の児童数がこう並んでるんですが、前いただいた資料だと、衣川小さんの児童の方がずっと多いというふうに示されていたと思うんですが、この数字の根拠とかどういった形なのか。

(学校教育課長)

はい。こちらは改定しております。まずは昨年度の資料を基にして、令和2年度とそれから令和7年度、こちらの部分はすでに生まれている子供達の数で、これは確度の高い数字でございます。ただし、令和12年度以降になりますけれども、まだ生まれてない子供たちの推計でございますので、こちらは令和2年度のところをまずは修正した段階で、令和12年度以降についてはマイナス5%基準で再計算した数値となっております。ただし、マイナス5%という数字は、平均して減少数を見ていきますと、ほぼ10%を超えるような減少のスピードでございますので、それほどは減少しな

いであろうという推定のもとに、こちらを示した数字となっております。

(委員長)

よろしいですか。

(委員)

令和7年度まではそのとおり推計したと。

(学校教育課長)

はい、そうでございます。

(委員長)

よろしいですか。

今のような形で、どこからでもよろしいですので。推計であるということですね。

それでは資料の方の1ページのところからですが、学校再編のねらいは、小中前期・後期、段階的な統廃合というふうに示されていますが、学校再編のねらいについて、質問ありませんか。特に、ございませんか。はい。

それで、まず、基本的にはそういうふうには押さえまして、2番目の学校再編スケジュールについては、地域からの要望等も含めてですね、できるだけ早い時期に、これをやっぱりこうやっていくことが必要ではないかと。これは前回までの会議の中でも、たびたび公表されてきたことですので。令和4年9月までを、学校再編案を策定を目指す。教育長の説明によれば、これよりも、この審議によっては、地区懇談会の状況によってはもっと早まるのではないかと。そういう含みを持つての提案だということを確認したいなというふうですが、よろしいですか。はい。

それでは前期・後期に分けたことについて皆さんから何か質問なり意見ございませんか。

(委員)

何で前期と後期に分けてあるのですか。

(委員長)

はい。お願いします。

(学校教育課長)

はい。前期・後期分けました理由でございますけれども、まず前期につきましては、早急な統廃合を検討する必要があるということで、主に児童生徒数の状況からこのように提案するところでございますし、後期の部分につきましては、まだ現状では、複式学級になっていない。それから中学校でも、複数の学級があるという現状をとらえての、前・後期の分け方でございます。

(委員長)

よろしいでしょうか。

去年までのあれでも、やっぱり江刺地域の小学校 12 校あるからで、江刺の場合には早急にやらなければならないんじゃないかと。その他の地域によっては、例えば、担任外の配置をね、考えなきゃならないというけども、今学校がちゃんとなってる状況で、これも急いでやらなきゃならないのかとか、いろいろご意見がありましたので、段階的にやっぱりやる必要もあるのではないかというそういうようなダイナミックな対応、フレキシブルな対応をやっぱりしていかないと、統合ありきじゃなくて、その実状に応じてちゃんとやると、そうなる全校区ですね、こういうふう考えたというのが教育委員会の方の説明ですが、よろしいでしょうか。

(委員)

はい。お話にも多分関連してくるんですけども、この素案で、他校と一緒になる当事者校としての観点からすると、やっぱり子供たちの物理的な教育環境を、やっぱり想定せざるをえないということなんです。それで、さっきの、それこそ前期・後期の区分けについてもとてもよく考えられてると思うのは、やっぱり本校に来る子供たちを主体として考えた場合、当初は3クラスと4クラスが混在する状態で、本校は状況としては3クラス主体に作られた学校で、工面すれば、令和5年度の状態で十分子供たちのキャパは確保できることになります。空き教室あるわけではないんですが、ただ特別支援学級の扱いをどう見ていくかっていうこと、物理的な人数だけってことではないということです。もうそれ鑑みた場合に、1回にドンとやっちゃうと恐らくは校舎の問題が出てくる。教室のキャパの問題が出てくるということで、やっぱりこの段階的な方策を講じたことで恐らくはスムーズに子供たちの増減の趨勢を見ながらスムーズに移行できるのだろうなというふうに思ってます。で数年後には、現状の児童数が、そのままということになりますから、教育環境としては今のままで十分ということです。来ていただければわかるんですが校庭も広いですし、学校も立派です。教育環境もいいですし、先ほど来お話になってるとおり30前後の1学級の編成になるということが、恐らくは7、8年後からずっと続くということで、現状で求められる子供たちのその能力の育成に関して見た場合に、人間関係形成力ってこと見た時にやっぱり30人弱のところずっと行くってことを勘案すると素案、江刺だけ見ればですよ、江刺の小学校だけ見れば、この素案で私は適切だろうなというふうに思っています。以上でございます。

(委員長)

貴重な意見ありがとうございました。先ほど私も挨拶で言いましたように、この統合案のやつは、学校経営をする上でのね、やっぱり学校側のサイドの意見も貴重だというふうに思います。実際に計画あっても受入れる学校側が、それで支障を感じながらやらなければならないっていうのはこれは遅速な進め方になりますので、岩小さんの場合には、段階を踏むことによって、それは可能ではないかと。そして、やっぱり江刺の場合も児童数の減少が見込め、見込むということから言えば、この案で対応できるのではないかなという、そういうご意見でした。

皆さんからさらに踏み込んだご意見をいただきたいというふうに思いますが。先ほど、江刺としてかなり関心持ってる委員さんなんかどうですか。

(委員)

集めて適正規模にして、子供たちに教育をするっていうのには賛成です。組み合わせを今いろいろ見たときに、稲瀬小がなんかこう抜けてるっていうか、江刺を、愛宕、私は愛宕なんですがまあまあ2クラスずつありますしいいかなと思うんですが、稲瀬小がこれ地理的なものでこう、それとも人数が満たされているんでしょうか。この稲瀬が考えの中に入ってないっていうので今ちょっと不思議だなと思ったんですが。

(委員長)

はい。これは前回までの会議の中でも、稲瀬の場合には、照岡小学校とのね、北上との関係もあるし、江刺として一括りにしてもそれぞれの事情もあるので、ここは特に配慮しながら進める必要があるのではないかというようなこれまでの経緯を踏まえてですね、私は思っていましたけれども、この辺の説明をお願いしたいと思います。

(学校教育課長)

はい。別添資料2の5ページをご覧くださいなのですが、別添資料2の5ページに、在籍児童数のシミュレーションが大変細かい字で申し訳ございませんが、示してございます。こちらは令和2年度から令和8年度まで、確定数字ということで、確度の高い数字になってございます。申し上げるのは、生まれた子供の数で、令和8年度まですべてカウントとなっておりますので、推計の数値ではございません。下の方に稲瀬小学校が独立してございますが、令和2年度の稲瀬小学校の全校児童数をご覧くださいますと67名となっております。令和4年度が、隣でございますが75名、令和5年度で79名というふうに、若干増加していく傾向が稲瀬地区でございます。令和7年度には85名、令和8年度でも84名ということで、ほぼ全学年ともに15人程度のクラス編成ということになってございますので、まず稲瀬小学校は、ここから先、数年間は独立した学校規模で推移するというでございまして。今稲瀬小学校、もしグループに入れるとすると、岩谷堂小学校の教室がまず足りない、大変過密な学校規模になってしまうという事情がございまして。

その下の4ページ戻っていただきますと羽田小学校をご覧くださいなのですが、羽田小学校は、後期の編成案ということで、今回お示したんですが、令和2年度の羽田小学校は児童数が103名となっておりますが、ずっと右の方に辿っていただきますと、令和8年度には90名まで減少するというでございまして。90を切ると、教職員の数が減るという事態が生まれますので、羽田小学校はこのあたりで、後期に統廃合について検討を行う、そういう対象地域ということでの提案でございまして。以上です。

(委員長)

よろしいでしょうか。

(委員)

人数的にはわかりました。ただ稲瀬地区の方々、保護者の方々の考えがね、他は相当な規模の学校に通わせることができるようになるんですが、何となく稲瀬だけ単学級でずっとって、お父さ

んお母さんたちがそれを良しとするかなっていうところがちょっと心配なところですね。でも、まあ、はい。いろいろ事情はあるでしょうからわかりました。

(委員長)

基本的な考え方がそういうことであるってことをまず委員さん達は理解していただきながら、仮にこれが、この地域懇談会ね、今度は説明会があるわけですので、そういったところでのご意見等なんかがこう配慮された形でこの素案が案にという、固まっていくのではないかなというふうに思いますが、今の場合も貴重な意見だというふうに思います。

そういった観点で皆さんからどんどん意見を出したいんですけれども、はい。

(委員)

はい。ちょっと突拍子もないこともあったかもしれませんがけれども27年後、25年後、そのあとの学校数が絞られてくるってことになりますよね。水沢地区であれば、大体3校になっていくのかなと。江刺だと小学校の方は1校と。そうすると奥州市全体として見ると、各地区の拠点になる小中学校ができていて、切磋琢磨が行われていくのかなと。そういった未来の可能性も秘められている部分があるのかなと。多分そこら辺、教育長さんのお考え、頭の中の片隅にあるのかなとったりするんですけども。奥州市の中で25年後の後の話ですけども、もしこんなふうな奥州市の学校を。

(委員長)

一応別添2のところでの1ページ目のところに、最終的な学校再編を行った学校数という形で中学校については、水沢の3校、それ以外は1校。それから小学校については、水沢6、江刺と胆沢は2、その他は1という形で、あと、その後、経緯を踏まえながら、やっていくと。そういう形で、とりあえずは示されていると。教育長なにか。

(教育長)

そこまで生きてるかどうかはわかりませんが、最終的な形っていう再編の姿っていうのは確かに切磋琢磨するためには複数校あった方がいいというのは、そのとおりでと思います。ただあまり小さくなくてもね、各、実は中学校はもうこれ以上何ともできない。今の状況でいくと。もうすでに1校、胆沢と前沢1つつつですし、衣川も1つですね。江刺がどうなるかと。今、この案でいくと最終的には一中あたりになるのかなというふうになるわけですけども、確かに子供たちのいわゆる切磋琢磨するためには、普通にこれくらいあった方がいいかなということはそのとおりでですが。ただこの地域を奥州市全体の地域でいくと、学校、中学校については、お互いその地区超え、地域超えしてもですね、いろんな部分での、なんていうか中体連とかですねそういう部分で運動面とか、文化面でそういうふうになってますし、いいのかなと。ただ小学校は、なかなかそうはいかないかもしれませんが、基本的に、この数で行かざる負え、行きたい。いわゆる生徒数、児童数ですよね。さっき言った複式のまま残しておいて、切磋琢磨っていうと大変じゃないかなとも思いますので、20、それについては後期の、後期が12年とかね27年とありましたけども、一応推定値ですので、その時に学校どうなるかっていうことについてはもう少し時間かけていかなければな

らない。今今、これ今後5年間とかね、6年間の間の前期・後期っていうか、前期は5年末、後期は6年度以降10年、この再編案は11年、10年を目途として一応の形を作るということですので、そこまでにいろんな修正するとかも、もう1回ですね、どんどん増えればいいんですけども、今の状況ではこのような形になっていくと。最終案の形になるのかなと。数少なくなるのは私も寂しいですが、いずれ今の計画の中で計画っていうか、見ると最終的にはこの学校数は、小学校12、中学7というふうに捉えております。

(委員)

私を感じたのは、奥州市の中で、前沢方式のように、小中一つずつちょっと奥州市の中でそういう小さな学校数になることによって他の市町村との競争もでき、一緒に入ってくるのかなというふうに思ってますね。そういうことを考えていくと、1つにならざるを得ないとするということで、その地域の特徴をその学校に、地域、新しく統合する、統合して学校に、地域性を作っていけるのかなと。特色づくりにも参画できる可能性が出てくるのかなと。いうふうに思ったので、ただ計画が11年までですんで、そのあとのことは、はっきりとは言えないんですけども、大きなビジョンと言うんですかね、奥州市の小中学校のあり方、他市町村との関係、岩手県全体ということも入ってくるんでしょうけども、ILCのこともありますけども、そういった部分の大きな目標、奥州市はこういうふうになるんだっていうところは、わかっていくとこの計画もさらに生き生きしていくのかなというふうに感じてお聞きしました。以上です。

(委員長)

その他にありませんか。

はい。どうぞ。

(委員)

ちょっとすいません。衣川の代表のような形でちょっとお話をさせていただきたいんですが、まず前期ではなくて後期になったっていうところで半分安心したところもあるんですけども、行く行くは小学校統合するのは止むなしなんだろうっていうことは私も理解できます。ただ、ここにはあまり触れられてないんですが、衣川中学校さんがこのまま本当に単独で存続していいのかっていうところがちょっと心配です。数で見ると、今度統合対象になっている江刺東さんとあまり変わらないような規模です。で今回の再編のねらいの中に、専科教員の配置であるとか、子供の希望に応じられる部活動っていう実態が、常に衣川中学校さんはできていません。なのにそのまま10年先も手をつけず、そのまま残していいのかなと。そういう気がしています。もしこのまま小学校が統合したとして、小学校も統合しても1クラス規模ですので、9年間ずっとクラス替えもなしで同じメンバーで進んでいくことになります。それって結構学校としても苦しいです。ちょっと中の悪い子がいたときに、クラス替えすればシャッフルできるだろうっていうのもあるんですが、今現在そういうのができていません。だから同じ教室の中で仲の悪いものがずっと無言でいるというようなこともあったりしてますね。あまりよろしくない環境だと思うので、もし可能なのであれば衣川中学校さんにもちょっと手をつけていただきたいという希望はあります。どうしてもそ

の旧行政区の縛りがあるということを言われてしまえばそれ以上は無理だと思うんですが、そこを何とかできるのであれば、隣の近くの大きい学校に行ってもらってという手も1つなのかなという気がしていますし、もしそうなるのであれば、小学校を統合した上で中学校がまた別なところに行くっていうのはおかしな話になるので、そもそもの小学校の段階から、近くの大きな小学校にもう持って行ってしまおう。例えば、これも衣里だったら前沢小の方に行っても近いわけですし、衣川小だったら胆沢さんの方に行った方が近いのかもしれないし、旧行政区のまとまりをすごく大事にしたいって委員の方もいらっしゃるんで、私はちょっとそこまで言っているのかどうか分からないんですが、いずれ中学校このままではいけないのではないかなという意見です。お願いします。

(委員長)

大変貴重な意見だと思いますね。学級編成、学級替えができないような状況では、人間関係が固定してしまったりとか、そういうあの、かなりこう学校経営、学級経営の中で、難しい問題があると実はそのとおりですよ。そういった点で、小中学校の再編を考えるのであれば、今の現状から言うと、衣川中の場合は、江刺東、江刺南がたどってきたような経緯から見ると、これも検討すべきことではないかということでしたんで、とりあえずこの見地ではどうですか。

(学校教育課長)

はい。今ご意見頂戴しましたので、今後地域の中での説明会、それから懇談会の中で、議論を深める材料とさせていただきたいと思います。

(委員)

2つ質問でございます。1点目ですが、別添2の資料の2ページ目、ちょうど中頃の段のところに、木細工小の先行統合のところがございますが、学級数のところが、全部単式にはなりません。ならないと思うのですが、全部単式というふうになってるのでこれはちょっと違うのかなと思うのですが、結局、玉里小学校さん現在、木細工小と統合にならないとしても、4学級ですか今、4学級で木細工小と統合しても4学級と変わらない状況なんだと思うのですが。学級数自体は変わらないですが、いわゆる木細工小学校の極小規模解消するための先行統合。あくまでもその後の人首、梁川、広瀬小学校さんの部分も含めていわゆる江刺東中学区の統合を見据えての先行統合というのは、考え方でよろしいのかというのが1点です。

それから2点目ですが、江刺地域のことで、全く話題にならないのは、江刺愛宕小学校さんなんですが、現在の江刺南中学校の小学校、それから江刺東中学校の小学校を最終的にはすべて岩谷堂小学校にというような提案だとかと思うのですが、そうなりますと、本資料の5ページ、5ページの資料を見ますと、すいません。5ページじゃないです。ごめんなさい。えっとどこだっけ。5ページでも良いのですが、例えば、そうですね令和7年に、例えば27年までずっと行ったとした時にですね、小学校の合計人数が712名中、約600人が岩谷堂小で、約150人弱が、江刺愛宕小学校ということで、ざっくり言うと6対1の学校規模になると。2校残る、2校にするということその2校の学校規模が大きく違う学校の2校ということになるかと思うのですが、ということを見ると、もしかすると、たとえ江刺南側の地域については江刺愛宕小学校との統合ってということもあっ

たりするのかなっていうふうに、定期的なことで考えれば、ちょっと思ったりするのでその辺の検討が、状況がもしありましたら紹介いただきたいと思います。以上でございます。

(学校教育課長)

はい。ありがとうございます。1点目の、木細工小学校の部分についてはご指摘のとおりでございまして、学級数すべて各学年1となつてございますが、こちらも今年度末で統合した場合には4学級で、まずは学級数は変わらないということでございます。ただ、先ほどお話しましたとおり、1年生、6年生がいなくなってしまうということと、やはり学校としては高学年の姿を見て、低学年が育っていくというそういう姿が、来年度は木細工小学校さんは実現できないということから、まず一刻も早くその状況を過少の状況を解消するというので、まずは先行的に玉里小学校と統合して、そして令和3年度末には、大きなBのグループの塊として、再度統合するというのでの提案でございます。

それから、2点目にご意見いただきました江刺愛宕小学校については、ご指摘のとおりでございまして、これまでの検討の中では稲瀬小学校を隣接している江刺愛宕小学校に、後期に統合を考えてもいいのではないかとということが課題としてあった部分でございました。様々な可能性の中では、やはりスクールバスの運行の中で、稲瀬から愛宕小学校に行く道が大変狭くてこうかなり危ないというような部分、稲瀬から岩谷堂小学校は比較的広い便利な直線道路があるので、そちらの方が交通安全の面からはいいのではないかとか、あと、この辺りは地域のご意見・ご要望を細かく聞きながら、今後検討加えていく部分かなということで、貴重なご意見として承りたいと思います。

(委員)

はい。

(委員長)

よろしいですか。はい。

その他に。そうしますと、本資料の方の今検討委員会での検討事項についての、学校再編案(完成形)の策定については、平成31年3月の見直しが完了して、具体的にこうやっていくということでもよろしいかと思いますが、段階的な統合、いろいろな課題も今指摘されましたので、地域懇談会等でもご意見をいただきながら、あとまた委員の皆さんの意見を聞きながら、具体的な素案を案にまとめていくという作業に入るのではないかなと思いますが、こういう進め方でよろしいでしょうか。

何か。意見ありますか。

(委員)

全く賛成ですから。

(委員長)

そうですか。

(委員)

はい。異議ありません。

(委員長)

はい。ではあと(3)の既存の学校施設を利用した先行的な統廃合についても、木細工小さんのような場合のケースについても説明がありましたので、ここでは概ねまず了解していただいたという形ながら、課題もあるということをお踏まえてですね、進めたいと思います。

では2ページですね、あとは、地域毎の検討委員会、準備委員会等も含めて、今後やっていきますよっていうふうな形の進め方、それから、学校再編案策定に関わっての根本については、ここは基本的に了解していることですので、これに基づきながら進めていくけれども、例えば衣里小なんかについては、担任外、絶対設けなきゃだめなのか、今学校機能してるじゃないかというような地域からの要望もあったので、早急にこれを文科省さん等統合進めるっていうについては、いろいろ意見があるという、そういう、意見もありましたので、そこは弾力的に、やっぱり合意形成していかないと、今後はうまくいきませんので、地域の理解なりですね、学校側のやっぱり実状に応じて、進めていくっていう形で、よろしいのではないかと思います。

そして、4ページ目の中学校の生徒数、許容できる規模こういった点についても、今これ説明がありましたので、これも視野に入れながら、衣川中の場合は特にそういう問題、江刺東、江刺南中がそうであれば、当然該当するのではないかと、じゃあ市としてはどうするのかってことを、今後検討していくっていうことで、3点確認をしたいなというふうに思います。

(2) 各委員会の検討内容について (1)

(委員長)

あと、7ページのところに、検討スケジュールについてこう示されていますけれども、この点について何かこう、今後の進め方これではどうなんだっていうことがたぶんあると思いますので、令和2年度、この進め方について、皆さんから、質問なりご意見をいただきたいと思います。次回は、11月、その前に地域説明会を開催しますよっていうふうなことでしたし、再編案についてアンケート内容及び方法の検討をしたいというふうに、これはアンケートのあれは。

(学校教育課長)

はい。7番検討スケジュールについての中程の表の中の①番のアンケート内容及び方法の検討という部分でございますが、こちらまずアンケートの項目につきまして、本日ご意見いただいたことを基に、アンケート項目の整理ということで今検討中でございますが、まずはアンケートの対象としては、保護者アンケートということで考えてございます。

加えて、地域会議での説明や、地域説明会の部分で、参加できなかった皆様方から、アンケート頂戴できる分であれば、現地にまずお持ちしてお配りして、アンケートへのご協力をお願いするというのも考えてございますし、②番地域会議につきましてはこの後、8月7日の金曜日でございますけれども、江刺地域会議を皮切りに、できる限り、まず地域会議でご説明、ご依頼申し上げた後、

それぞれの地域、前期の対象地域でございますけれども、説明会を開催し、ご意見を広く頂戴したいというふうに考えてございます。

(委員長)

こういう取り進め方でよろしゅうございますか。

それでは令和3年度の予定とか、そういう日程になりますので、ここに示されたようなスケジュールでいくということで、ただ会議終わった時、次回のことについてのいろんな確認をしながらですね、具体的に説明をしていくと。

それから、この会議でもし聞けなかったことなり、あるいは地域から別な情報が入った段階ですね、この点はいかがなものでしょうかということ、事務局の方に、遠慮なくご意見を申し上げてですね、そして、進めていけたらいいのかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それと、ちょっと素案についてはこれでよろしいですか。

はい、ありがとうございます。

(2)の方の検討スケジュールの方まで入ってしまいましたので、そこまでは、聞きましたが、それでは、多分、これが、多分、今日新聞社さんも来てますので、どういう形で見出しを付けて出されるかによってすごい反響が多分あるのではないかなというふうに、あくまでも素案であるということと、いろんな意見が出てますので、これで確定ではないということですね。そして、むしろ委員さんの方にいろいろな質問なり意見が出たならば、それをお聞きしながら、この会議に反映させていくというスタンスを持って、自分の意見でもってこれがどうのこうの形とはならないということで、是非その辺のスタンスですね。立ち位置をまず確認した上で、本会として進めていきたいなというふうに思いますが、よろしいでしょうか。はい。

(3) その他

(委員長)

(3)のその他に入りますが、委員さんの方から、特にこの際ってということで、持ち合わせの事項がありましたならば。今日欠席の委員さんの方には、事務局の方から多分、資料配付と同時にこの課題になったところ、説明があるというふうに思いますので。あとは委員さん同士でいろいろ情報交換していただければというふうに思います。

じゃあ、事務局の方から何かその他でありますか。

(学校教育課長)

はい。特に持ち合わせてございません。

(委員長)

じゃあ、教育長の方で、ここで話があるそうでございますので。

(教育長)

この素案につきまして決定していただきましてありがとうございます。非常に事務局としてもですね非常に悩んでいたところでもあります。特に校長先生が言ったように衣川についても非常に難しい状況なんですよね。地域、地理的なことって言ったら、こんなこと言ったら怒られちゃうんだけど、江刺もそうなんだっていうとそうなんですけども、非常に難しいという部分があります。でまあいわゆる大きな学校と、大規模校と小規模校っていういわゆる、さっき校長先生がいったような部分と、非常に大変、組み合わせがどうこうじゃなくて、いずれ子供たちにとってどっちがいいのかということですし、さっき委員さんから出た稲瀬の件なんですけども、一応、先ほど事務局話したようにですね、愛宕とっていう部分もあったんですが、非常に難しい。愛宕、地形的な部分があったりですね。だったら岩小に来るだろうという考え方で。ただやっぱり1つは稲瀬の部分は、90以下なんですよね。そうすると、担任外が見つからないという、これが1つのネックになってまして、そこら辺の部分はこれから照岡地区からどれくらい入ってくるか、これちょっとまだきちんと把握してない部分、入ってこないんじゃないかなというふうに思いますけども今の状況で言うとな。ですからそういう部分も含めていきたいと思います。いずれこれは全くの素案であります。一応素案を基にして、この地域会議とか、地区に話をした後に、いろいろ議論が出てまた第5回ということで、皆さんに案を出す。地域会議で振興会長さん等については、ご出席なさるんだろうと思いますので、その時課長が説明しますので、バックアップをやらないといけないと思います。本当に今日はありがとうございました。以上です。

(委員長)

ちょっと確認ですが、8月7日というのはすでにもうスケジュール組んでいるようですが、そういうスケジュールもやっぱりね8月のことですから事前にやっぱりないと、その出席が誰であるのかとかね。ちょっと前の地域会議であれば、委員さん達にも出席してもらって、そういったとこ、どこで可能であるとかね。そういうのはないんですか。事務局だけで説明ですか。この基本的な考え方がちょっとわかりませんので。

(教育総務課長)

ちょっと地域会議違いなので。地域での説明会ではなくて、江刺地域の地域会議っていうのあるんですよ。江刺だから行政説明しかない。地域の住民の方への説明会ではないので、地域会議というのは。

(委員長)

そういう意味のあれ、今びっくりしました。この素案のやつをもって、この委員さん達が回ってやるのかと。そうですね。はい。ちょっと今、勘違いしました。だそうです。ここの委員は直接関係ないということでもありますね。はい。わかりました。

7 その他

16:23 閉会